

自平成 26 年 4 月 1 日
至平成 27 年 3 月 31 日

平成 26 年度事業報告書

公益財団法人 MR 認定センター

平成 26 年度事業報告書

自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日

1.平成26年度事業の実施

平成26年度の事業は、3月10日に開催された公益財団法人MR認定センター第13回理事会において承認を得た「平成26年度事業計画」に基づき実施した。

2. 理事・監事・評議員

1) 評議員の選任

6月26日に開催された第7回評議員会において、任期満了に伴う評議員の選任を行い、9名のうち7名を再任した。

遠藤一司評議員、内藤晴夫評議員の辞任申し出に伴い、佐藤博氏、野木森雅郁氏が評議員として選任された。任期は、定款第16条により4年あるので、平成30年度定時評議員会の終結の時までとなる。

2) 理事及び監事の選任

6月26日に開催された第7回評議員会において、任期満了に伴う理事及び監事の選任を行い、理事全員と監事1名を再任した。

藤宮滋夫監事の辞任申し出に伴い、長岡美奈氏が監事として選任された。任期は、定款第33条により2年であるので、平成28年度定時評議員会の終結の時までとなる。

山崎幹夫理事の辞任申し出に対して、理事長高久史磨理事長より評議員全員に提案書を発し、12月1日に書面決議がおこなわれた結果、寺田弘氏が理事として選任された。任期は、定款第33条により2年であるので、平成28年度定時評議員会の終結の時までとなる。

3) 理事会及び評議員会の開催

(1) 理事会

第14回 5月27日(火) 於:「東京會館 LEVEL XXI」オリオンルーム

- ① 平成25年度事業報告書(案)及び決算報告書(案)を承認した。
- ② 内閣府指示に伴う平成23年度及び平成24年度決算報告書の修正について承認した。
- ③ 評議員2名及び監事1名の辞任に伴う新たな評議員、監事を選任するため、6月26日に第7回評議員会として招集することを決議した。
- ④ 事務局長の定年退職に伴い、専務理事が事務局長を兼務することについて承認した。
- ⑤ 理事長及び専務理事より職務の執行状況について報告があった。

第15回 7月1日(火)(定款第45条の規定による決議の省略の方法により決議)

- ① 代表理事(理事長)として高久史磨氏の選定について承認した。
- ② 業務執行理事(専務理事)として小清水敏昌氏の選定について承認した。

第16回 11月20日(木)(定款第45条の規定による決議の省略の方法により決議)

- ① 理事の交代に関して第8回臨時評議員会を招集することを決議した。

第17回 2015年1月14日(水) 於:「東京會館 LEVEL XXI」オリオンルーム

- ① 第21回MR認定試験の結果を承認した。
- ② 専務理事の事務局長兼務を解き、新たに事務局長を総務部長兼務として近澤洋平氏の選定について承認した。
- ③ 平成27年度事業方針(案)について報告した。

第18回 2015年3月9日(月) 於:「東京會館 LEVEL XXI」オリオンルーム

- ① 平成27年度事業計画(案)について承認した。
- ② 平成27年度収支予算(案)について承認した。
- ③ 理事長及び専務理事の職務の執行状況について報告された。

(2) 評議員会

第7回 6月26日(木) 於:「東京會館 LEVEL XXI」オリオンルーム

- ① 遠藤一司評議員、内藤晴夫評議員の辞任申し出に伴い、佐藤博氏、野木森雅郁氏が評議員として選任された。任期は定款第16条により、平成30年度定時評議員会の終結の時までとなる。
- ② 藤宮滋夫監事の辞任の申し出に伴い、長岡美奈氏が監事として選任された。任期は定款第33条により、平成28年度定時評議員会の終結の時までとなる。
- ③ 平成25年度事業報告書(案)に伴い、平成25年度決算報告書(案)が承認された。
- ④ 内閣府指示による平成23年度及び平成24年度決算報告書の修正について承認された。
- ⑤ 平成26年度事業計画について報告された。
- ⑥ 平成26年度収支予算について報告された。

第8回 12月1日(月)(定款第25条の規定による決議の省略の方法により決議)

- ① 山崎幹夫理事の辞任申し出に伴い寺田弘氏を理事として承認された。任期は、定款第33条により、平成28年度定時評議員会の終結の時までとなる。

3. MR認定試験の実施及び認定に関する事業(定款第4条第1号関係)

1) 第21回MR認定試験の実施

(1) 試験実施のため、人材派遣会社社員及び試験会場の大学アルバイト総計336名に試験監督員を委嘱し、これら監督員に試験当日の会場設営と当日の試験監督を依頼した。

- ① 試験日時 12月14日(日)午前9時30分より午後3時50分まで
- ② 試験地 東京、大阪の2地区2会場 (学習院大学、大阪工業大学を借用)
- ③ 受験者数

	人数
新規受験者	4,449名
再受験者	1,086名
受験者計	5,535名
受験申請者数	5,652名

なお、新規受験者は、平成26年度導入教育修了者が中心であり、昨年より181名増加した。

(2) 試験委員会の開催

第25回運営委員会 9月12日

- ・第21回MR認定試験問題等について検討した。

第28回試験委員会 5月26日

- ・第21回MR認定試験の作問要領の確認及び提出期限の確認を行った。

第29回試験委員会 2015年1月14日

- ・第21回MR認定試験受験者に対する合否についての判定を行った。

(3) 合否の判定

2015年1月14日開催の第17回理事会で承認を受けた後、1月28日付で受験者に試験結果を通知した。

	合格者数	合格率
新規受験者	3,670名	82.5%
再受験者	448名	41.3%
合計	4,118名	74.4%

(4) 合格基準の公表

合格基準点及び配点並びに正答を公表した。

2) 第22回MR認定試験の準備

第22回試験は2015年12月13日とし、実施に向けて準備に入った。

- (1) 第22回試験受験案内を2015年3月27日付で各企業に通知した。

(2) 試験会場として学習院大学、日本大学経済学部、大阪工業大学から借用できる内諾を得た。

3) MR認定証の発行及び管理

(1) 第21回MR認定試験合格者への認定証は、申請のあった1,633名に対し、2015年3月31日までに順次発送した。

また、企業の合併やMRの企業間移動及び認定証の棄損・亡失などの理由により再交付した認定証は、202枚であった。

(2) 不合格者に対しては、再受験科目の管理を行った。

4) MR認定証の更新手続き

MR認定証の有効期限が2015年1月末日の者を主な対象とし、認定更新を行った。

(1) MR認定証の更新と管理

① 19,929名のMRから認定更新の申請があり認定した。

② MR認定証の更新には5年間の教育研修修了認定が必須のため、MR認定証更新に関する認定研修のデータを具備した「MR教育・試験管理システム(MR O)」を運用し管理した。

(2) MR認定証更新に伴う補完教育

① 補完教育は、2012年度からIT(パソコン)方式にて実施した。経過措置期間として2016年度までの5年間は、用紙方式を併用する。

② 北里大学薬学部から2014年度の新作問題として47問を受領し、未使用の作問約500問をブラッシュアップした。2012年度の出題問題を各科目とも約30%新作問題とブラッシュアップした作問を入れ替え、CBTに600問搭載した。

③ 2014年度補完教育の受講状況(2015年3月31日現在)

対象者は、MR認定証の有効期限が2015年1月末日であり、更新に必要な認定研修を充足できず認定証の更新を希望する者。

・IT方式 申込数3,093名(企業2,745名 個人348名)

受講者登録数 2,724名(ID・パスワード発行者数)

未受講者数 56名

受講中者数 98名

合格者数 2,511名

不合格者数 59名(受講期間内に修了できなかった者56名・テストを3回受講して合格基準に達しなかった者3名)

・用紙方式 申込者数 18名

合格者数 18名

不合格者数 0名

④ 2014年度補完教育については、第7回補完教育小委員会(2015年3月3日開催)

にて検討の上、第43回教育研修委員会(2015年3月10日開催)に報告した。

5) MRの資質向上等に関する調査研究事業

調査活動

(1) MRの実態及び教育研修の現状に関する調査

センター登録 205 社に対し 2014 年 3 月 31 日時点でのMRの実態及び教育研修の現状についてアンケート調査を行い、「MR白書」(2014 年版)としてとりまとめた。

また、当アンケート調査の調査項目の現状における妥当性と方法の再検討のためにフィードバックアンケートを行い、9月に「MR 白書フィードバックアンケート」としてまとめた。

(2) MR 活動意識調査

センター登録 203 社の教育担当責任者を通じて、MRが今どのような状況にあり、どのように考えているのかを、2015 年 2 月にMRに直接アンケートを実施した。

(3) 各企業との情報交換会の開催

MRをめぐる環境変化が激しくなっているので、企業訪問し情報交換会を開催した。

①日本バーリンガーインゲルハイム株式会社(9 月 10 日)

②日本イーライリリー株式会社(10 月 20 日)

③バイエル薬品株式会社(2015 年 2 月 26 日)

④アポプラスステーション株式会社(2015 年 3 月 17 日)

4. MRに対する教育研修に関する事業(定款第4条第2号関係)

1) 教育研修委員会

第42回委員会(9月19日開催)

(1)2013年度「教育研修システム」の認定等について承認した。

・2013年度「教育研修システム」及び「教育研修施設」の認定について。

・2013年度「教育研修認定に関する指導基準」に基づく改善指導について。

(2)2013年度教育研修の認定状況について承認した。

(3)2013年度補完教育実施報告について承認した。

(4)教育研修セミナーの実施報告について報告した。

(5)MR白書について報告した。

(6)カリキュラム委員会について報告した。

(7)2014年度補完教育現況について報告した。

第43回委員会(2015年3月10日開催)

(1)2015年度補完教育受講要項(案)を承認した。

(2)カリキュラム委員会の報告をした。

・医薬概論の科目名の変更を考えている。

・疾病と治療では、疾患の基準を文系の初学者が学ぶに適切なものとする。

・疾病と治療テキストのケーススタディは好評につき、今後さらに充実させたいと

考えている。

- (3)MRの意識調査の配布先を検討する。現薬大へ寄贈してみてもどうかという意見が出された。送付先を図書館にすれば、寄贈となり保管される。
- (4)2014年度補完教育現況について報告した。

2) 補完教育小委員会

第6回小委員会(9月9日開催)

- (1)2013年度補完教育実施報告について検討した。
- (2)IT方式・用紙方式の受講状況について検討した。
- (3)2014年度受講後のアンケート調査について検討した。

第7回小委員会(2015年3月3日開催)

- (1)2014年度補完教育の受講状況を報告した。
- (2)2014年度受講後のアンケート調査の結果を報告した。
- (3)2015年度補完教育受講要項(案)について検討した。

3) 教育研修システムの運用

(1) 教育研修に関する認定

「MR教育・試験管理システム」を運用し、教育研修履修の認定を行った。

- ① 教育研修計画書及び実施報告書の企業からの申請に基づき審査を行い、各MRの教育研修履修認定を行った。

	企業数	申請教育研修数	教育研修対象者数
導入教育計画認定	134社	360件	4,414名
同実施報告認定	134社	360件	4,015名
継続教育計画認定	206社	1,011件	84,256名
同実施報告認定	201社	1,004件	75,621名

- ② 新規に教育研修を開始する企業及び合併する企業からの申請に基づき、教育研修システムの認定を2社行った。一方、業務廃止・企業合併に伴い4社の登録を抹消した。登録企業数は、205社である。
- ③ 新規に教育研修施設の認定はなく、登録辞退が1社あり合計15社となった。
- ④ 計画書の遅延や申請を失念した企業に対して「教育研修認定に関する指導基準」に基づき、改善指導を行った。
 - ・注意 5件
内容:おもに2013-2014年度計画申請の失念
措置:口頭にて注意し、一部は顛末書の提出を求めて注意を促した。
 - ・指導 4件
内容:2008-2013年度の継続教育計画申請を失念。

措置:対象者の履修証明記録、顛末書の提出を求め、教育研修に関する管理体制を見直し、再構築するよう指導した。

(2)各企業からの教育研修に関する相談について、助言・指導を行った。

4)教育研修管理者講習会の開催

(1)教育研修管理者認定講習会

各企業に教育研修管理者1名の登録を義務付けており、新たに教育研修管理者となる者のための講習会を行った。

① 教育研修管理者認定講習会の実施及び認定状況

イ. 会場 東京薬事協会・会議室

ロ. 内容 MR認定センター職員による教育研修要綱等の解説

ハ. 実施及び認定状況

開催日	教育研修 管理者予定者数	再試問 対象者数	教育研修 管理者認定者数
4月9日(水)	22名(5名)	0名	22名
7月9日(水)	23名(11名)	1名	23名
11月12日(水)	19名(9名)	0名	19名
2015年1月21日(水)	7名(3名)	0名	7名
計	71名(28名)	1名	71名

()内は、非登録(複数)の教育研修管理者数

② 試問

イ. 実施方法 CBT(Webを使ったテスト)

ロ. 出題形式及び判定基準

問題		判定
正誤	40問	正答率90%以上で合格とし、合格するまで実施
穴埋め	10問	
小論文	1問	5段階評価(A B ⁺ B B ⁻ C)を行い、B ⁻ C は不合格とする

(2)教育研修管理者認定更新講習会

教育研修管理者は、1年毎の認定更新を必要とする。東京と大阪の2会場に分けて開催した。

① 開催日及び場所

10月15日(水) 東京:東京コンファレンスセンター・品川

10月21日(火) 大阪:薬業年金会館

② プログラム

13:30~13:40	挨拶	専務理事 小清水敏昌
-------------	----	------------

13:40～14:00	第Ⅰ部 MRの資質向上 MR認定制度が目指していたもの 総務部長 近澤洋平
14:00～14:30	MRの資質向上と管理者の皆さんへの期待 企画部長 行入正彦
14:30～15:10	PMDAにおける医薬品の安全対策とMRの役割 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 井坂弘道氏(東京) 馬渡 力 氏(大阪)
15:30～16:00	第Ⅱ部 MR認定制度の運用 第21回MR認定試験について 試験事業部長 福田正信
16:00～16:40	MR教育研修要綱について 教育研修部長 松本悦子
16:40～17:00	MRテキストの改訂について 総務部長 近澤洋平

③ 受講者数

	東京	大阪
管理者	225名	59名
オブザーバー	29名	11名
合計	254名	70名

5) インストラクター支援講習会の開催

(1) インストラクター研修会

① 開催内容

会場	東京 (アイビーホール)	大阪 (クロスウェーブ梅田)
日程	5月22日(木)～23日(金)	10月23(木)～24日(金)
	6月19日(木)～20日(金)	
	2015年2月5日(木)～6日(金)	
対象	インストラクター経験の浅い(1年以内)MR研修担当者	
講師	(株)話し方研究所 戸田久実氏、内田賢司氏	
内容	インストラクターの基本スキルとマインドを学ぶ	

② 参加者

企業数	参加者数	(東京)	(大阪)
38社	96名	72名	24名

(2)MRに対するマナー指導者セミナー（平成24年度より実施）

① 開催内容

会場	大阪(クロスウェーブ梅田)	東京(アイビーホール)
日程	10月17日(金)	2015年2月20日(金)
		2015年3月13日(金)
対象	導入教育の担当者	
講師	アドットコミュニケーション(株) 戸田久実氏	
内容	MRに求められる基本的なマナー(身だしなみ、言葉づかい)を指導できるようにする	

② 参加者

企業数	参加者数	(東京)	(大阪)
28社	37名	29名	8名

(3)ファシリテーション研修会

① 開催内容

会場	東京(アイビーホール)	
日程	7月11日(金)	2015年1月23日(金)
対象	研修会を効果的に進めたいインストラクター	
講師	PHP研究所 今村恵理氏	
内容	研修ファシリテーションスキルを修得し、効果的な研修を実現する	

② 参加者

企業数	参加者数
21社	38名

(4)MR認定センターセミナー

①テーマ

「チーム医療におけるMRの存在意義」

② 開催日及び場所

8月30日(土) コクヨホール(品川)

③ プログラム

13:30～13:40	挨拶 専務理事 小清水敏昌
13:40～14:20	基調講演 「デジタル時代におけるMRの役割」 国保松戸市立病院 薬局長 生島五郎
14:30～15:10	特別講演

	「医学部教育の現状と課題」 杏林大学医学部解剖学教室 教授 松村讓兒
15:20～17:20	パネルディスカッション 「医師の薬物治療技術の向上とMRの存在意義」 司会 (公財)MR認定センター 総務部長 近澤洋平 講演1. 若手病院勤務医の立場から 東邦大学医療センター大森病院呼吸器外科助教 牧野崇 講演2. 開業医の立場から 池上幸仁診療所 副院長 石田博文 講演3. 病院管理者の立場から 医療法人社団松井病院 院長 宮田一
17:20～17:30	閉会挨拶 日本製薬工業協会 常務理事 田中徳雄

④ 参加者

企業数	参加者数	懇親会参加企業	懇親会参加者
86社	167名	41社	74名

(5)トレーナーズ・セミナー入門コース

① 開催内容

会場	東京(アルカディア市ヶ谷)	大阪(クロス・ウェーブ梅田)
日程	10月 9日(木) 11月13日(木)	10月22日(水)
対象	新たにMR教育研修トレーナーになった者と教育について基礎から学びたい者。	
講師	サンライトヒューマンTDMC(株)代表取締役社長 森田晃子氏	
内容	トレーナー入門者が、効果的なMR教育についての基礎を学び、自社の教育に応用できるようになる。	

② 参加者

企業数	参加者数	東京	大阪
33社	49名	29名	20名

(6)トレーナーズ・セミナー基礎コース

① 開催内容

地区	東京(セミナーハウス フォーリッジ)
日程	11月20日(木)～21日(金)

	12月18日(木)～19日(金)
対象	MR教育研修インストラクター
ファシリテーター	サンライトヒューマンTDMC(株) 代表取締役社長 森田晃子氏
内容	MR教育について、効果的・効率的な教育理論の基礎について理解を深める参加者主体型のセミナー

② 参加者

企業数	参加者数
26社	42名

5. 出版物の頒布に関する事業(定款第4条第3号関係)

1) MRテキストの頒布

(1) 頒布価格

書籍名	本体価格	税込み
MRテキストⅠ 医薬品情報2012	1,500円	1,575円
MRテキストⅡ 疾病と治療2012(基礎)	1,800円	1,890円
MRテキストⅡ 疾病と治療2012(臨床)	2,100円	2,205円
MRテキストⅢ 医薬概論2012	1,800円	1,890円

(2) 改訂版の作成

書籍名	頒布時期
MRテキストⅠ 医薬品情報2012 2015年改訂	2015年3月
MRテキストⅡ 疾病と治療2012(基礎) 2015年改訂	2014年12月
MRテキストⅡ 疾病と治療2012(臨床) 2015年改訂	2014年12月
MRテキストⅢ 医薬概論2012 2015年改訂	2015年3月

(3) 頒布部数

書籍名	頒布部数
MRテキストⅠ 医薬品情報 2012	2,759部
MRテキストⅠ 医薬品情報 2012 2015年改訂	4,503部
MRテキストⅡ 疾病と治療 2012(基礎)	2,661部
MRテキストⅡ 疾病と治療 2012(基礎) 2015年改訂	6,373部
MRテキストⅡ 疾病と治療 2012(臨床)	2,800部
MRテキストⅡ 疾病と治療 2012(臨床) 2015年改訂	7,909部
MRテキストⅢ 医薬概論 2012 2014年改訂	3,852部
MRテキストⅢ 医薬概論 2012 2015年改訂	4,779部

(4) その他の冊子の作成と頒布

・2014年版MR白書—MRの実態および教育研修の変動調査—

6. 広報活動(定款第4条第1号関係)

1) 第17回センター・ミーティングの開催

開催日:東京会場 2015年2月24日(火)

大阪会場 2015年2月27日(金)

場 所:東京会場 東京コンファレンスセンター・品川

大阪会場 薬業年金会館

- ① 日本製薬工業協会 流通適正化委員会副委員長 今堀 勝氏による特別講演の実施。
- ② 「カリキュラムの改訂について」日野晴之 カリキュラム委員会委員長より報告を行った。
- ③ MR認定センターの中期計画について
 - 1) 有資格者の科目免除について
 - 2) MR認定試験の実施時期
 - 3) MRテキストの改版

それぞれについて報告をし、総合意見交換を行った。

2) 薬科大学での講義

薬剤師のMRに占める割合が年々減少してきていることから、薬科大学等で「MRと製薬企業」について講義を行った。

4月10日(木) 慶応義塾大学薬学部

9月18日(金) 北海道薬科大学薬学部

11月 5日(水) 東北学院大学業界セミナー

3) 第24回日本医療薬学会に出展

9月26日(金)～28日(日)に開催された日本医療薬学会年会において、名古屋国際会議場でブース展示し、薬系大学教員・学生や医療関係者にMR職などを紹介した。

4) 第135回日本薬学会年会に出展

2015年3月26日～28日に神戸市で開催された、日本薬学会第135年会において神戸サンボーホールにてブース展示し、薬系大学教員・学生や医療関係者にMR職などを紹介した。

5) 学会発表・講演等

- ・日本医薬品情報学会 発表(7月12-13日 鹿児島県民交流センター)
- ・(一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団:エキスパート研修会
講演(8月22日 長井記念ホール)
- ・(一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団:MA 業務担当者研修会

- 講演(11月26日 長井記念ホール)
- ・(一社)茨城県病院薬剤師会合同研修会 講演(1月10日 筑波国際会議場)
 - ・西部ガス(株)研修会 講演(2月19日 西部ガス熊本支社会議室)
 - ・(一社)東京医薬品工業協会教育研修委員会 講演(3月4日 東薬工会議室)

6) MR認定センター20周年記念事業の検討

MR認定センターが、2017年12月1日に20周年を迎えることから、広報事業の一環としてこれを記念した事業を行うべく、2015年3月より広告代理店等を通じて検討を開始した。

7. 委員会の開催

1) 試験委員会

(p3を参照)

2) 教育研修委員会

(p5を参照)

3) 補完教育小委員会

(p6を参照)

4) カリキュラム委員会

教育研修委員会の下部組織としてカリキュラム委員会を発足させ、活動を行った。

(1) タスク

導入教育「基礎教育」コアカリキュラムの見直し及びMRテキストの改善に関する提言を教育研修委員会に対して行う。

(2) 委員

担当	所属	氏名
委員長	コーチ ビーイング プラス 代表	日野晴之
医薬品情報	アステラス製薬(株) 医薬研修部	大堀 進一
医薬品情報	日本ジェネリック(株) 学術情報部	平野伸治
医薬品情報	シミック・アッシュフィールド(株) 人財開発センター	渦巻浩也 ^{※1}
	シミック・アッシュフィールド(株) 人財開発本部	三田寺洋二 ^{※2}
疾病と治療	大日本住友製薬(株) 営業人材開発部	岡埜仁子
疾病と治療	ノボノルディスクファーマ(株) フィールドトレーニング&ディベロップメント部	浦 義幸
疾病と治療	帝人ファーマ(株) 学術情報部	野口克彦
疾病と治療	ゼリア新薬工業(株) 学術研修室	岡本邦彦
疾病と治療	(学)医学アカデミー YTL 事業部 学術部	平島光博
医薬概論	バイエル薬品(株) 営業トレーニング	吾郷克己
医薬概論	日本新薬(株) 医薬研修部	金子丈二 ^{※3}

医薬概論	日本新薬(株) 医薬研修部	沖見宗和 ^{※4}
医薬概論	(株)メディカルエデュケーション 大阪事務所	井上佳昭

※1:2013年4月～2014年11月

※2:2014年12月～

※3:2013年4月～2014年3月

※4:2014年4月～

(3)活動

- ①第3回カリキュラム委員会(5月10日開催)
各分科会の検討事項を発表し、全委員で共有した。
- ②第4回カリキュラム委員会(11月21日開催)
カリキュラムのコンセプトを確認し、分科会の進め方について合意した。
- ③第5回カリキュラム委員会(2015年3月5日開催)
各分科会の進捗報告と、今後の進め方について確認した。

8. 設備投資等について

1) 特定費用準備資金等の取り崩し

認定試験事業及び教育研修事業のITシステムのサーバーに搭載されているOSのサポートが26年7月に終了することを受け、25年度に積み立てたソフトウェア取得引当資金を取り崩し、改修に充てた。

2) 特定費用準備資金等の積み立て

認定試験事業及び教育研修事業のITシステムの拡充・改修のために、特定資産取得・改良資金を積み立てるとともに、2017年12月1日にMR認定センター創立20周年を迎えるにあたり、周年事業を計画し特定費用準備資金を積み立てた。

9. その他

1) MRに関するセンター懇談会の開催

目的:各団体と今後のMR教育のあり方やその方法論等について意見交換する

参加者:今堀 勝委員 日本製薬工業協会流通適正化委員会副委員長
 水野文雄委員 東京医薬品工業協会教育研修研究会研究会長
 濱口哲郎委員 大阪医薬品協会教育研修研究会委員長
 松本研一委員 日本ジェネリック製薬協会信頼性向上プロジェクト
 MR教育研修担当リーダー
 河島数明委員 日本医薬品直販メーカー協議会教育研修委員会委員長

	第4回
日時	2015年2月17日(火) 15:00～17:00
場所	東京薬事協会204会議室

テーマ	<ol style="list-style-type: none">1. MR 認定試験制度に関する中期計画について<ul style="list-style-type: none">・有資格者の科目免除について・試験時期について2. 導入教育「基礎教育」コアカリキュラムの改訂について<ul style="list-style-type: none">・カリキュラム委員会の活動報告・コアカリキュラム改訂とテキスト改版スケジュール
-----	---

以上